

1-23 各部の基本納まり図

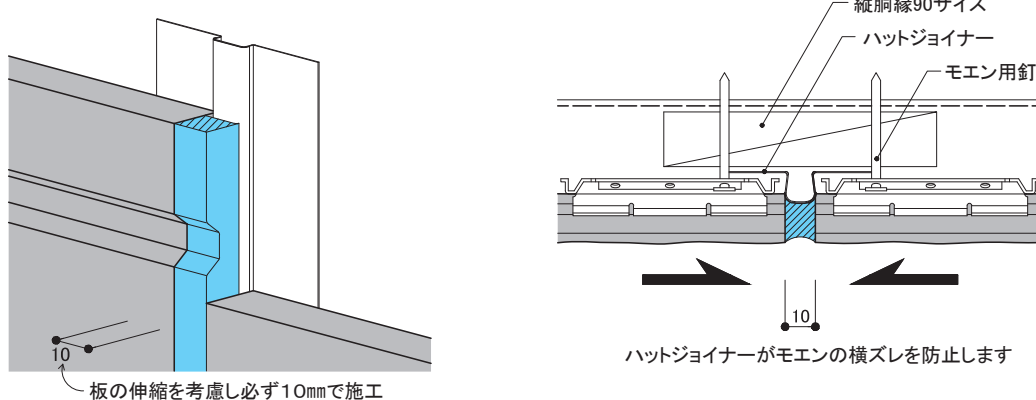
4) 左右接合部

①基本納まり

横張り施工において、10尺品はシーリング接合、四方合いじゃくり品は合いじゃくり接合、縦張り施工においては合いじゃくり接合が標準です。

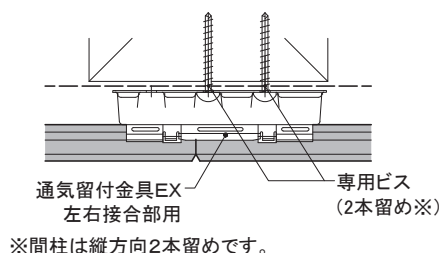
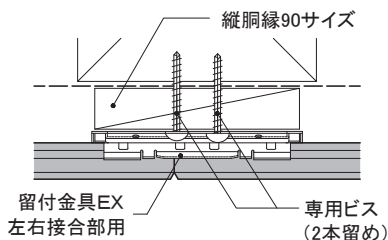
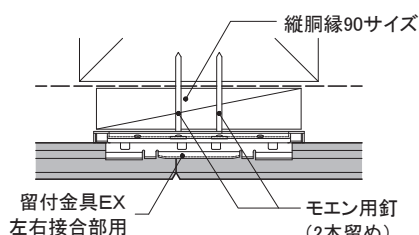
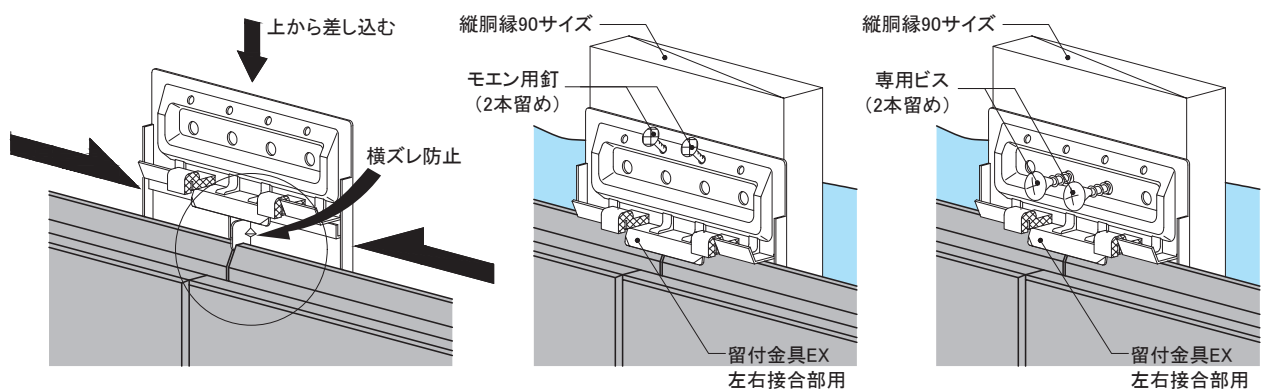
横張り(シーリング接合)

- ハットジョイナーはモエン用釘を用いて横ずれ防止する役割も兼ねているため、1m以下の間隔で留め付けます。
- 左右接合部のシーリング目地は3面接着によるシーリング追従不足にならないよう、専用のハットジョイナーを用いて施工します。
- ハットジョイナーは金具施工の場合、横ズレ防止の役目もあります。モエンの厚み・施工方法ごとに設定しているもので施工してください。



横張り(四方合いじゃくり品) 接合部用留付金具により左右のズレを防ぎます。

- 四方合いじゃくり品には必ず接合部用留付金具を使用します。
- 縦胴縁は幅90mmを使用し、モエン用釘または専用ビス(φ4. 1mm×35mm)で2本留めとしてください。



- 水平方向に連続する壁面が長い建築物に四方合いじゃくり品を施工する場合は、緩衝目地(エキスパンションジョイント)として15m以内ごとにシーリング目地を設け、横ズレ防止のためハットジョイナーを釘または、ビスを用いて455mm以下の間隔で留め付けてください。
(木造下地はP83を、鉄骨下地は別冊「Commercial Wall」をご参照ください。)